ISSN 0917-4508

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.24

1995.1.1.

操り言

ー利用者へ(血圧安定のために)ー

近藤　征宏

学生時代図書館を利用したことが殆ど無いといっていい位、まして図書館業務に全く無知な私が図書館事務部次長に任命されて早くも四年が経過しようとしている。

本学図書館においては利用者も貸出冊数も年々増加の一途を辿り、「朝日オリジナル『大学ランキング'９５－主要１７２大学ランキングで教育の充実度を見る』」によれば図書館の総合ランキングでは１７２大学（国公私大）中２５位、私立大学中貸出冊数の多い大学として２２位にランキングされている。いずれも中部地区の私立大学ではトップである。

図書館電算システムも１９８５年から開始し、二年程前からレスポンスの悪化、使い勝手の悪さから新システム構築の検討を実施した結果、伊藤忠テクノサイエンス（株）との共同開発により、昨年１１月初旬から全国初のワークステーションをサーバーとしたクライアント／サーバー方式による新しい図書館システムが試行稼働したのはご承知のとおりである。

この新システムは同時に敷設された学内ＬＡＮ（ＡＴＭを使用したネットワーク）と接続し、学内のどこからでも図書館、研究所、研究センター、視聴覚センター資料の検索や予約ができ、将来は自宅からも検索できるようにしたいと考えている。

また、新システムの第２次開発においては、ますます進歩するであろう資料の電子化（ＣＤ－ＲＯＭ、外部データベース等）にも対応できるよう考えている。

いいことづくめの南山大学図書館であるように述べてきたが、ここで苦言を呈しておきたい。それは利用者のマナーの悪さである。館内では飲食厳禁、館内では静粛に、返却は期限内に等々新入生ガイダンス、利用講習会や職員の巡回等で注意しても一向に違反者が後を断たない。図書館を利用する権利には当然図書館での遵守事項を守るという義務が伴うことを忘れないでいただきたい。（個人的なことを申し上げて申し訳ないが、一昨年の７月に館内巡回中、４人で弁当をひろげ大声で雑談している学生を注意した結果、余りの嘆かわしさに血圧が急上昇し脳血栓で一ト月間入院生活を余儀なくされた。）

閲覧席の返本台に飲食物で汚された本があったり、参考図書の一部分が切り取られたり、本の背がどうしたらこうなるのかと思うぐらい破損していたり枚挙にきりがないほど乱雑な扱いをされた蔵書を見て嘆いている職員を慮っていただきたい。

遵守事項違反者には利用停止などの厳しい処罰を課すという措置も考えざるをえない現状と勉学意欲のある者に制約を課すのはどうかという狭間で苦悩しつつ、レファレンスサービス業務の充実を図り、図書館の理想を追い求めて努力しているのが図書館職員の現状である。

(Yukihiro KONDOH : 図書館事務部次長)

留学生(インタビュー)!!

10 Nov., 1994

留学生の方たち

A :Alexandra Hennig (Germany)
F : Ma. Freda S. Salmo (Philippines, Nurse)
J : Jesse Jacobs (U.S., University of Massachusetts)
R : Robert Saundler (Britain, Lancaster University)
D : Dana Bowen (Australia, Northern Territory University)

担当広報委員　S : Staff

S:今回はインタビューのために5人の留学生の方々に集まっていただきました。まず、ドイツから来ているAlexandraさん。Alexandraさんはライブラリーツアーに参加しましたか。

A:はい、でも日本語だったので良く分からないうちに終わってしまいました。

S:それは残念でしたね…。では南山大学図書館のシステムやサービスについては知っていますか、例えば資料の探し方とか…。

A:目録で探します。でもこの図書館のカード目録はどこにあるんですか…。

S:一階の閲覧室にありますよ。検索用のコンピューターＧＥＭＭＡの使い方を知っていますか。

A:使ったことはありませんが、コンピューターで検索が出来るんですか。

S:はい、出来ますよ。11月から新しい検索用のコンピューターシステム"ＧＥＭＭＡ－ＩＩ"が稼働し始めました。使い方が分からなければ図書館に来てくれれば館員が使い方を教えますよ。

A:そうですか。どうもありがとう。

S:ドイツの図書館では飲食や喫煙はできますか。

A:飲食や喫煙は閲覧室では禁止されています。でも同じ建物の中に飲食や喫煙できる部屋はあります。

S:何か図書館に留学生のためにできることはありますか。

A:もっとたくさんの他言語の本もあるといいですね。

S:この図書館にはドイツ語の本もたくさんあるんですよ、でもほとんどが閉架の棚にありますからコンピューターを使って探してみるといいでしょう。どうもありがとう、Alexandraさん。次はフィリピンから来ているFredaさん。フィリピンの図書館とここの図書館との違いは何ですか。

F:日本の図書館はフィリピンの図書館よりコンピューター化が進んでいますね。フィリピンではコンピューターを導入している図書館はまだ稀です。ですから本を探す時は著者や主題のカード目録を使います。またフィリピンでは、図書館内での飲食や喫煙は禁じられています。私語はできるだけ慎むことになっていて、特に勉強する場所は静かです。

S:ここの図書館はうるさいですか。

F:ええ、時々。

S:そのような状況を解消するためにどうしたらいいと思いますか。

F:私が以前フィリピンで学生だった頃は、閲覧室の机に図書館員に通じるボタンがありました。騒がしい時にはそのボタンを押せば、図書館の人が静かにしてくれるんです。

S:それはいいアイデアですね。Fredaさん、どうもありがとう。次はJesseさん。

J:僕のアメリカの大学の図書館は世界で一番大きくて高いんですよ。27階建でメイン・ビルの一番上の２階分はとっても素晴らしい煉瓦造りになっています。

S:すごいですね！どこの大学ですか。

J:すごいでしょ（笑）。マサッチューセッツ大学ですよ。MIT (Massachusetts Institute of Technology) ではありませんよ（笑）。マサッチューセッツ大学は学生数約25,000人位の中規模の大学で、図書館はだいたい朝７：００から夜の１２：００まで開館していますが、アメリカの大学図書館ではたいていそうですよ。MITなど他の大学の図書館にはベッドがあるところもあります。

S:そういった施設は無料で利用できるんですか。

J:はい。アメリカの大学では学生はとても熱心に勉強します。学生が図書館で長時間勉強する時に、そういった施設で一時休憩をして、すぐまた勉強に戻れるよう配慮されているんです。僕の大学の図書館では、上級生になると小さな個人用の部屋を与えられます。もちろん図書館は（ここと比べると）もっと大きいですが…。アメリカの大学では図書館は確実に研究のためにある、そういったところが日本の大学図書館のシステムと違うと思いますね。日本では大学受験はとても難しいけれど入学してしまえば簡単だとよく聞きます。でも研究を目的としてここに来る留学生としては、図書館が閉まる時間が少し早過ぎると思います。週末は開いていないし…。このことは僕の他にも留学生の多くが感じていることですね。図書館というよりお店みたいだ。（留学生一同頷く。）

D:そのために9時から始まる朝授業の前に図書館で勉強したいけどできないのがとても残念ですね。

J:それから、大勢の学生が閲覧室で大きな声で雑談しているのは問題だと思います。でも日本では、そんなときどう言えばいいのか分からないし…。

S:確かにそれは問題ですね。

J:それから、例えば " Teen-age alcohol statistics " についての資料を探しているとき、図書館の人に日本語でどうやって説明したらいいのか…とても難しいですね。あと " White paper " のことを僕は " 白紙（…しろかみ）！" だと思って、" しろかみはどこにありますか？" と図書館の人に聞きましたが通じませんでした（笑）。本当は白書（はくしょ）ですよね。図書館の人は親切に助けてくれようとしたんですけど…。言葉の壁は厚いと思います。ここで本を探せなかったら、他の所で探すのも大変で本当に困ってしまいます。

S:なるほど。ところでJesseさん、アメリカの大学図書館では延滞料の制度がありますか。

J: はい、どの図書館でも請求されると思います。少なくとも１日１冊２５円です。もっとかかることもあります。それから夜遅くまで図書館を開けておくのはそんなに大変なんでしょうか。たった一人カウンターにいてくれるだけでいいんですが…。本当に一人カウンターにいて貸出や返却をしてくれるだけでいいんです。ここ（２階事務室）はこんなに大勢の人が働いていて驚きました。そんなに大きな図書館ではないのになぜですか。

S:以前はここの図書館が閉まるのは６：３０だったんですよ。今は夜８：００まで開館していますけどね。それから、図書館には先生からの注文を受けたり本や雑誌を購入したり資料の分類をしたりする仕事もあるんですよ。ここ（２階事務室）ではそういった表からは見えない業務に携わっていて、１階ではサービスやコンピューター部門を扱っているんですよ。どうもありがとう、Jesseさん。それでは次はオーストラリアから来ているDanaさん。

D:オーストラリアの私の大学では返却期限に間に合わないと延滞料はとても高くて、確か１日につき１ドル（高い！）だと思います。初めての時は許してもらえますがそれ以降は延滞料が請求されて、何度も繰り返すとライブラリーカードが使えなくなります。本を紛失しても（請求額は）もちろんとても高いです。

コンピューターシステムについては、とても使いやすくて分かりやすく機能もとてもいいんです。オーストラリア中の大学図書館にアクセスして所蔵が調べられるし、本を注文することもできます。大学は田舎の方にありますがコンピューターのサービスはとても行き届いています。開館時間は月曜日から土曜日までは朝７：００から夜１０：００まで、日曜日は６時に閉館します。

S:日曜日も開いてるんですか。

D:はい、学生はみんな土曜日や日曜日に集中的に勉強するんですよ。

S:オーストラリアでは学生は学校の寮に住んでいますか、それとも通学ですか。

D:一部の人は寮生だけどほとんど通学生ですね。今大学には新しい寮が出来たのでこれから寮にすむ人は増えてくると思います。とくに留学生が多いでしょうね。オーストラリアでは通学といえば自分の車で３０分くらいですが、日本では通学に２時間くらいかかる人も多いでしょう。それは随分違いますね。

S:そうですね、もし多くの学生がキャンパス内の寮に住んでいれば夜遅くまで開館する必要性ももっと高くなるでしょうね。

D:それに日本の大学生はあまり熱心に勉強しないとよく言われていますね。大学や専門に寄ると思いますが…。でもこの図書館を見る限りでは確かにそんな印象を受けます、学生はのんびりしているし…。ところで、もし探しているものがコンピューターになかったらカード目録か何か見た方がいいですか。

S:ええ。1985年までに買った本はカード目録に入っています。もし新しい本を見つけたかったらコンピューターで探してください。

D:カード目録とコンピューターの両方があるんですね。でも利用者にとっては少し複雑ではありませんか。

S:そうですね、現在カードのデータをコンピューターに遡及入力していますが、全てのデータを入力するにはまだしばらく時間がかりそうですが…。

D:そういえば、私の大学では学生はコンピューターでいつでも自由に自分の利用状況が見られます。学生番号と暗証番号を入力すると自分が借りている本の冊数や返却期限を知ることができます。

S:ここの図書館でもカウンターで尋ねれば、貸出冊数などの情報を調べることができます。学生が自由に調べることは出来ませんが…。

D:自分が何冊借りていて、あと何冊借りられるのかを知っていなければならないので学生は頻繁に確認します。本の予約状況を調べて自分で予約することも出来ます。予約した本が返却されると図書館からは家に連絡をしてくれます。"本が戻ったので借りられますよ"ってね。

S:それはいいですね。

D:ええ、全てのことが自分でできるんですよ。ここでは欲しい資料は国内のどこにあるか調べられますか。

S:はい、できますよ。何か調べたいことがあったら参考カウンターに来てくださいね。

D:ええ、でも研究のために細かいデータを集めなければなりませんがカウンターで言いたいことが通じるかどうか心配でなかなか行けません。私は日本人の会話パートナーに頼んで一緒に来てもらって説明していますが、その人がいなければコンピューターの使い方や図書館のどこに欲しい資料があるかなど分かりません。留学生のための最初のオリエンテーションで図書館の人が"これはこうで、これはこうで、あれはあーで…"って説明してくれましたが、"はいはい"って聞くだけで終わってしまいました。将来的にはもっと詳しく説明した方がいいと思います。またはもっと知りたがっている学生に限って行うのもいいでしょうね。コンピューターの使い方も希望者には教えてもらえるとうれしいです。

S:どうもありがとう、Danaさん。では最後にRobertさん、あなたの専攻は何ですか。

R:社会学です。でもここの社会学の本はとても古いと思う…。

S:ここのって？

R:CJS コーナーの資料です。

S:地下の書庫には社会学の本はたくさんありますよ。

D:地下に？本当？

R:そうなんですか？

S:社会学について英語で書かれた資料もたくさんありますよ。書庫には留学生は入れませんから、ＧＥＭＭＡで検索して出納票をカウンターに出せば館員が書庫から出してくれますよ。

D:知りませんでした。だから見つからなかったんですね…。

S:ＧＥＭＭＡはとても重要なんです。CJSコーナーは社会学などの分野を専門的に研究したい利用者の方にとっては確かに少々物足りなく感じるでしょうね。Robertさんは社会学の本を探しているんですね。

R:ええ、日本についての。

D:以前授業で本が必要になりましたがここで見つけられなかったので、他の大学で借りたり丸善や国際センターで買ったりしました。後でどこにあるか教えていただけますか。

S:ええ、もちろん。

D:よかった！

S: Robertさんのイギリスの大学図書館でも延滞料はありますか。

R:はい、１日につき３０ペンス位ですね。開館時間はだいたい他の国の大学図書館と同じだと思います、日本は例外だけどね（笑）。それから、イギリスの大学の図書館員は全てプロフェッショナルですね。

S:日本の大学生についてはどんな印象を受けますか。

R:勉強が嫌いみたいですね…。図書館での学生を見ているとそんな印象を受けます。それより処世術を身につけることの方が大事みたいですね。図書館は一種の社交場になっているみたい。

D:つまり…コミュニケーションに熱心だわ（笑）。

S:そうね…ある学生には言えるかもね…。

…皆さん、インタビューへのご協力ありがとうございました!

<文庫訪問>

今回訪問したのは「東海銀行貨幣資料館」です。地下鉄伏見駅から歩いて１０分弱、威圧するようなオフィスビルの建ち並ぶ街中にありました。東海銀行本店の北側にある御幸ビルに入り自動ドアを３枚ほどくぐると、ようやくそこが目的地の東海銀行貨幣資料館です。ごみ一つ落ちていない美しいフロアに、当館メインの資料である大量の貨幣が整然と展示されていたのでした。

早速、私達は当資料館の副館長である工藤洋久さんに資料館の説明をしていただきました。この「東海銀行貨幣資料館」は昭和３６年（１９６１年）に東海銀行創立２０周年を記念して、一般の人々に広く貨幣を理解してもらおうと開設したのが始まりだそうです。館内に常時展示されている資料の数はなんと１万点。この数は民間の施設の中では日本一とのこと。紀元前の古代ギリシアや中国から現在に至る世界の貨幣を揃え、特に日本の貨幣類はほとんどを網羅しています。私達が社会科の授業中、教科書や資料集で時々お目にかかった大判・小判等の貨幣の写真はだいたい当館のものだそうです。知らず知らずにお世話になっていたんですね。広く一般の人たちに見てもらうために集められた資料ですが、専門家が見ても耐えうるものだということです。当館の利用者数は年間２万３千人。１日平均して１００人弱だそうです。主に一般社会人の見学が多く、夏休みには家族連れ、秋には中学生のグループ見学が多いようです。

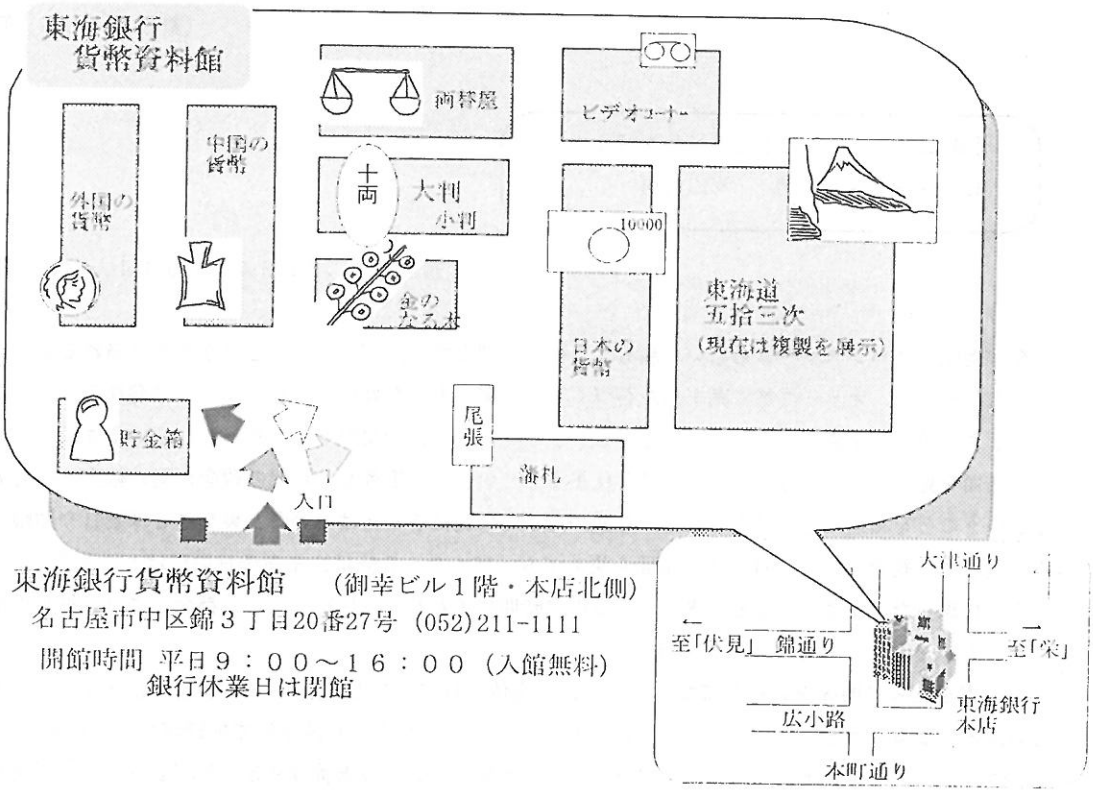
館内を案内しながら、工藤さんがここの資料及び資料館の特色について二つのことを語ってくださいました。一つめは当館資料はいわゆる絵画等のような鑑賞・美術品としてではなく、あくまでも経済活動の末端の道具として貨幣を公開しているということです。一般に私達は学校等で歴史を勉強する時、経済活動の流れのみで歴史を追うことはしません。歴史を学ぶ上で盲点となっている経済的視点から見た歴史。そこに焦点を当てて今に至る経済活動の流れを追い、現在の経済システムについてその利点・特色等ｂａｓｉｃなところを、経済活動の道具である貨幣、つまりここの資料達からも学んでもらえれば幸いだとおっしゃっていました。しかし、それと同時に、そうは言ってもこれらの資料達から何を学びどれくらい理解するかは見る側の全くの自由であること、それ故に当館の展示方針は説明文を最低限に抑え、主に資料のみを公開するようにしている事も二つめの特色だと言います。つまり見る側に色々な利用の仕方をしてもらいたいということです。例えば国文学科の学生が『世間胸算用』を読む前に当時の貨幣事情を予習する目的で利用するとか、劇中でその舞台となる時代にどんな貨幣を用いていたかを検証するために訪れるとか、工藤さん自身も思いがけない利用法をされたりすることがあるそうです。一通りの確定された利用の仕方、解釈を館側から押しつけるのではなく、数限りなくある利用法、そしてどこまでも深まりうる理解度の可能性を見る側にいつも与え、そこから見る側の全くの自由でもって、どのような方法やどのような理解を得るかを選んでもらいたいとおっしゃっていました。また、理解を深めるために館内にはビデオコーナーが設置してあり、無料のパンフレットは他施設よりも充実しています。そのためか、何度でも必要に応じて見学する人が多いそうです。

ところで残念なことに、文庫訪問と銘打っておいて実は今回・・・文庫がない！ここの資料館は図書は一般に公開しないとのこと。所有している図書資料は貨幣資料を分類する時に用いるような種類の専門的な本

であって一般向けのものではないのだそうです。あくまでも企業内で使用するためのものなので、普通は貸出もしないし公開もしないそうです。が、しかし、個人的に質問してきてアドバイスを求められたりした場合とか、資料そのものと対応している時のみ、本を見せたり図書資料の紹介をしたりすることはあるそうです。ということは要するに目的があってお願いしてみれば見せてもらえるということですね。

貨幣資料の他にも関連資料として、千両箱、万両箱、金のなる木とか、昔から今までの貯金箱なんかも数多く展示されていて、見る側を飽きさせません。更に両替屋を復元したモデルルーム（日本一大きい）や、安藤（歌川）広重の代表作『東海道五十三次』などの浮世絵類も多く所有しています。銀行が運営する資料館なので土・日・祭日がお休みなのが玉に傷ですが、休講の時などに是非訪れてみてください。
“資料から受け手へと伝わるものの可能性を最大限にしたい”と言う工藤さんの姿勢に深く共鳴しつつ、その反面、“見る側が鈍感だと何にも得られずに終わってしまうぞ”という危機感と“貯金箱に一番喜んでいた私っていったい・・・？！”という軽い自己嫌悪に陥りながら、東海銀行貨幣資料館を後にしたのでした。

（整理係　石井知好・長谷川久美）



東海銀行貨幣資料館　（御幸ビル１階・本店北側）
名古屋市中区錦３丁目20番27号（052)211-1111
開館時間 平日９：００～１６：００（入館無料）
銀行休業日は閉館

<資料紹介>

「鳥たちをめぐる冒険」
（講談社学術文庫）
W．H．ハドソン著　黒田昌子訳　講談社　1992

請求番号（０８１Ｋ／２４１８／ｖ．０－５６５）

久しく単行書等読んだことはないのですが、以前読んだものの中から一冊、アメリカ人の両親の子として、アルゼンチンに生まれ、そこで少年期・青年期を過ごし、後イギリスに渡り、帰化したW．H．ハドソンの作品をご紹介しましょう。彼の作品は、少年期から青年期をアルゼンチンのブエノス・アイレス近郊の自然の中で過ごした為か、鳥類・自然をテーマにしたものが多いのですが、この作品もその一つです。私も何度かアルゼンチンを訪れておりますが、事実ブエノス・アイレスを一歩郊外に出ますと、一面の草原が広がり、そこには色々な鳥たちが羽ばたき、囀っております。なかには日本でも見られる鳥(もっとも名前は異なりますが)も沢山見られます。また、電柱の上に土で巣を作り、雌鳥を待つ鳥もいます。この本は、こう言ったアルゼンチン郊外の自然を鳥たちを通して描いた作品で、数多くの銅版画の挿絵も載せられていて、興味を誘う作品です。初版は1977年(講談社）ですが、本図書館では文庫本として再版されたものが所蔵されております。原書は残念ながら所蔵されておりません。

（整理係　内藤　英明）

『南仏プロバンスの１２カ月』を読んで
ピーター・メイル著　　河出書房

請求番号（Ｂ９３４Ｋ／６４４，指定ＦＡ２）

今、南仏プロバンスブームらしい。私も、この本を読んで以来プロバンスという土地に憧れるようになった。ぶどう畑や、オリーブ畑に囲まれた石づくりの農家の素朴な暮らしぶり、ユーモア溢れる人々の人情など、まさに田園の楽園という感じだ。ただしプロバンスでは、時間がゆったりと流れているようだ。家の修理の場面を見ても、大工さんがのびのびと仕事をしているし、筆者も『時間の観念が実に幅広く弾力的であるということを私達は思い知らされた。融通がきくといえばきこえはいいが、裏を返せば期日や期限はないのと同じで、約束でいくらはっきり時間を決めても「ほんの１５分は、まあ今日中には」「明日は今週中」くらいに思った方がよい』などと書いているので時間に追われた生活をしている都会人には、彼らのやり方にとまどいを覚えることも多いと思う。

この本を読んで興味をお持ちになった方は、『南仏プロバンスの風景』（請求番号９５４Ｋ／５８８）をお読みになることをおすすめする。これは本というより、目で楽しむ読み物で挿絵がたくさんあり、この土地の雰囲気がよりわかる。また『南仏プロバンスの木陰から』（請求番号９３４Ｋ／２０５）も『南仏プロバンスの１２カ月』の続編でより細かな筆者の日常生活のことが書かれており、違う意味でおもしろい。

（閲覧・参考係　南谷　夕貴子）

知ってるとおトクな『分類番号』

000　総　　記
010　図書館
020　図書．書誌学
030　百科事典
040　一般論文集・講演集．雑書
050　逐次刊行物
060　学会．博物館
070　新聞．ジャーナリズム
080　双書．全集
090

100　哲　　学
110　哲学各論
120　東洋思想
130　西洋哲学
140　心理学
150　倫理学
160　宗教
170　神道
180　仏教
190　キリスト教

200　歴　　史
210　日本
220　アジア
230　ヨーロッパ
240　アフリカ
250　北アメリカ
260　南アメリカ
270　オセアニア
280　伝記
290　地理

300　社会科学
310　政治
320　法律
330　経済
340　財政
350　統計
360　社会学．社会問題
370　教育
380　風俗習慣．民俗学
390　国防．軍事

400　自然科学
410　数学
420　物理学
430　化学
440　天文学
450　地学
460　生物学．博物学
470　植物学
480　動物学
490　医学．薬学

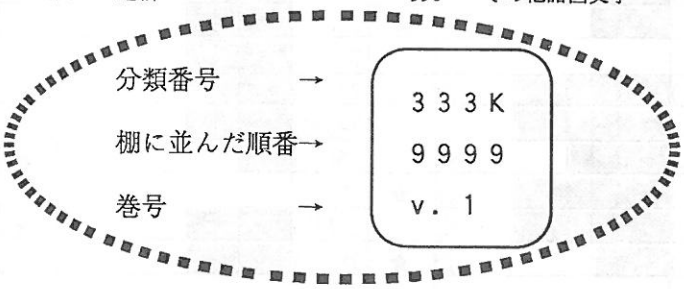
500　工学．技術
510　土木工学
520　建築学
530　機械工学
540　電気工学
550　海事工学
560　採鉱冶金学
570　化学工業
580　製造工業
590　家事

600　産　　業
610　産業．農学
620　園芸．造園
630　蚕糸業
640　畜産業．獣医業
650　林業
660　水産業
670　商業
680　交通
690　通信

700　芸　　術
710　彫刻
720　絵画．書道
730　版画
740　写真術．印刷
750　工芸
760　音楽．舞踏
770　演劇．映画
780　体育．スポーツ
790　諸芸．娯楽

800　語　　学
810　日本語
820　中国語．東洋諸国
830　英語
840　ドイツ語
850　フランス語
860　スペイン語
870　イタリア語
880　ロシア語
890　その他諸国語

900　文　　学
910　日本文学
920　中国文学．東洋文学
930　英米文学
940　ドイツ文学
950　フランス文学
960　スペイン文学
970　イタリア文学
980　ロシア文学
990　その他諸国文学



皆さんは、本の背についている請求番号の意味をご存じですか？これを頼りに本を探すわけですが、この請求番号には「分類番号」が付いているのです。この分類番号は、あらゆる学問を分野ごとに分けて、番号化しているもので、『ＮＤＣ　Nippon Decimal Classification 日本十進分類法（７版）』に基づいています。文学とか、経済学とか、まとめて棚に並んだ方が使いやすいからです。自分の興味あるテーマの番号を知っていると何かと便利ですよ。ただし、このＮＤＣは内容が固定していますが世の中に新しく登場した分野は番号がないので、できるだけそれに近い分類番号を使っています。環境科学 (468) や人工知能 (141, 335, 549) など、どの分野に属するか大いに迷うものもありますが …。GEMMA - IIでは分類番号を知らなくても分類検索できますが、［ワード］の所に分類番号を入れても検索できるので、上の表をぜひ参考にしてください。

ライブラリーカレンダー

1995.1 ～ 1995.3

1月			2月			3月		
9:00　6:00　8:00			9:00　4:30　8:00			9:00　6:30		
4:30　6:30	長	書	0:00　6:30	長	書	0:00		書
1(日) 元　日　冬期休館			1(水)	☆		1(水)		
2(月) 1月6日まで			2(木)	☆	★	2(木)		★
3(火)			3(金)	☆		3(金)		
4(水)			4(土)	☆	★	4(土)		★
5(木)			5(日)			5(日)		
6(金)			6(月)	☆	★	6(月)		★
7(土) 12:00			7(火)	☆		7(火)		
8(日)			8(水)	☆		8(水)		
9(月)		★	9(木) 休館　平成7年度			9(木)		★
10(火)			10(金) 入学試験の			10(金)		
11(水)			11(土) ため			11(土)		★
12(木)		★	12(日) 2月13日まで			12(日)		
13(金)			13(月)			13(月)		★
14(土)		★	14(火)			14(火)		
15(日) 成人の日			15(水)			15(水)		
16(月)			16(木)		★	16(木)		★
17(火)			17(金)			17(金)		
18(水)			18(土)		★	18(土)		★
19(木)		★	19(日)			19(日)		
20(金)			20(月)		★	20(月)		★
21(土)		★	21(火)			21(火) 卒業式		
22(日)			22(水)			22(水) 振替休日		
23(月)	☆	★	23(木)		★	23(木)		★
24(火)	☆		24(金)			24(金)		
25(水)	☆		25(土)		★	25(土)		★
26(木)	☆	★	26(日)			26(日)		
27(金)	☆		27(月)		★	27(月)		★
28(土)	☆	★	28(火)			28(火)		
29(日)						29(水)		
30(月)	☆	★				30(木)		★
31(火)	☆					31(金)		

■：開館時間　☆長:春期休暇中長期貸出取扱期間

★書: 3・4年次生書庫入庫日（月・木曜pm 1:00～4:30, 土曜am 9:00～11:30）

文献探索講習会は、4月より再開します。

《編集後記》

あけましておめでとうございます。新しい年を迎えることで人は何度でも生まれ変われる…。新鮮な気持ちで今年も頑張ります。

(M.Y, K.S , C.N)

(ﾀｲﾄﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ：平松富美)

南山大学図書館報　デュナミス No.24
1995.1.1.発行

南山大学図書館　広報委員会
編集委員：米田、諏佐、野村
〒466 名古屋市昭和区山里町18
Tel 052(832)3707
Fax (G3) 052(833)6986